



繪本藤れ縁序

花鳥の序は白づま成りくらくらとほのろふ

かこ世縁より川乃色れ中ふぬとつらぶとみおとせ

ゆき水波もゆきふきつるとなりくらくらとあさ

むんかん者いよく老りとます我國れ至寶ハ

源氏物語ふるこそるあうるへ一紙り君臣乃

まゝなり仁義乃道夫婦の妹善提れ縁ふらる



まごころん哉のますことよしあし春秋左氏傳に
と流し此國史也當世のよりけり哉有の海ふ志じ
其邪は足ていん哉正一こふ佛せりめん久人
乃りんとまのら又あり今此物徳とまこ不持
世の好まらんけり有の海ふ志じ一の後うり付
色と好淫乱の人志まき當提法すめ徳とまのら
万世乃りあり然れけ物徳ん来ぬとて云ふ事は也

後上二

悠遠あしんそまもくゆわくをの人原氏地波の名はみ
変てよじんまらんありけ一物とらとよみはるる
儒佛神れ字又ありて一生れ情りとわく色
せめていあさくく乃を歴と留してそれけとを
志めんとも谷川氏れ画よよいてよおのほとを

述者 方舟子

画工長谷川光信

壺桐

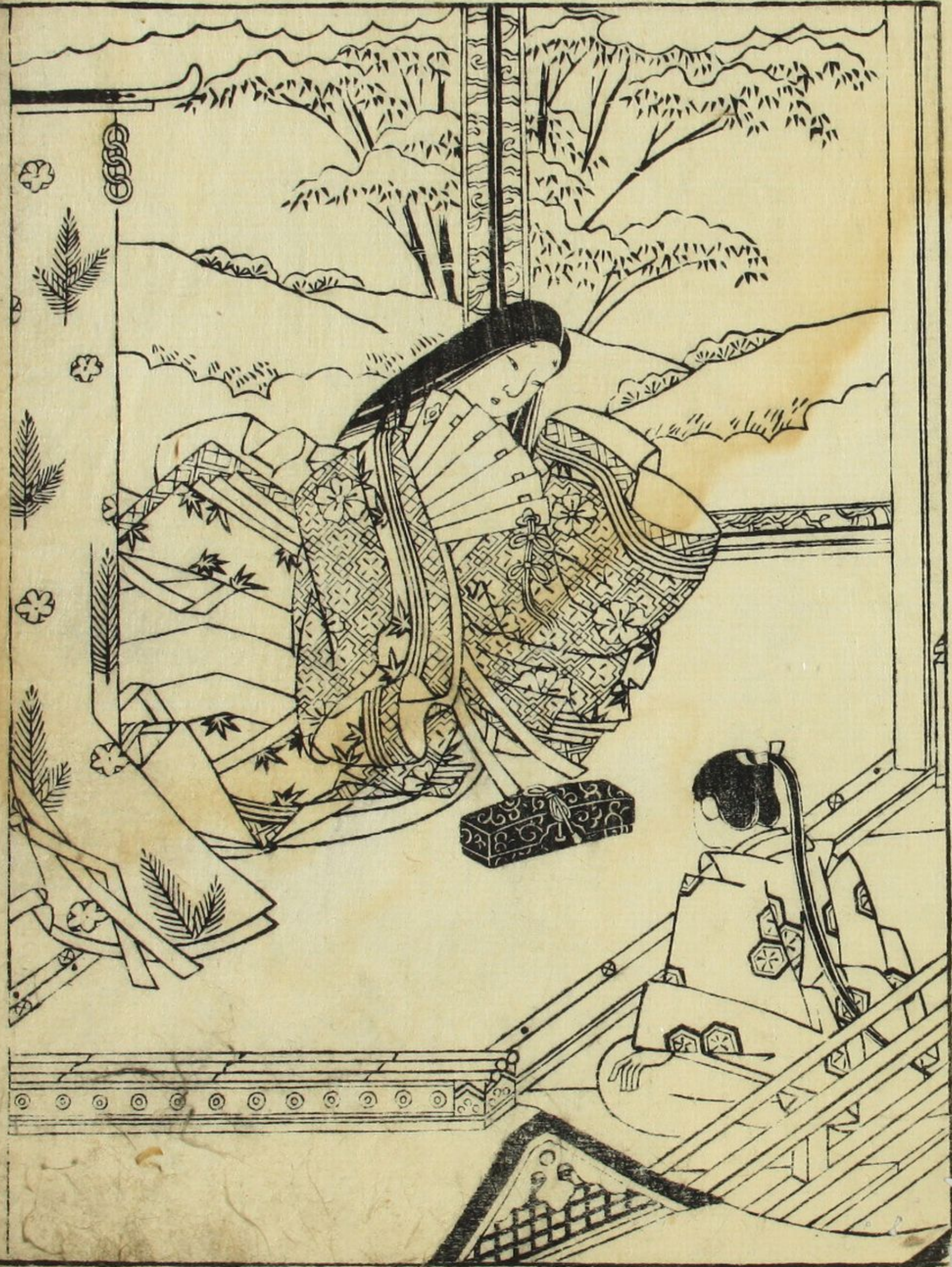


虫の音
志者記
紙りあり
病あささ
ふも
雲れう一人

後上

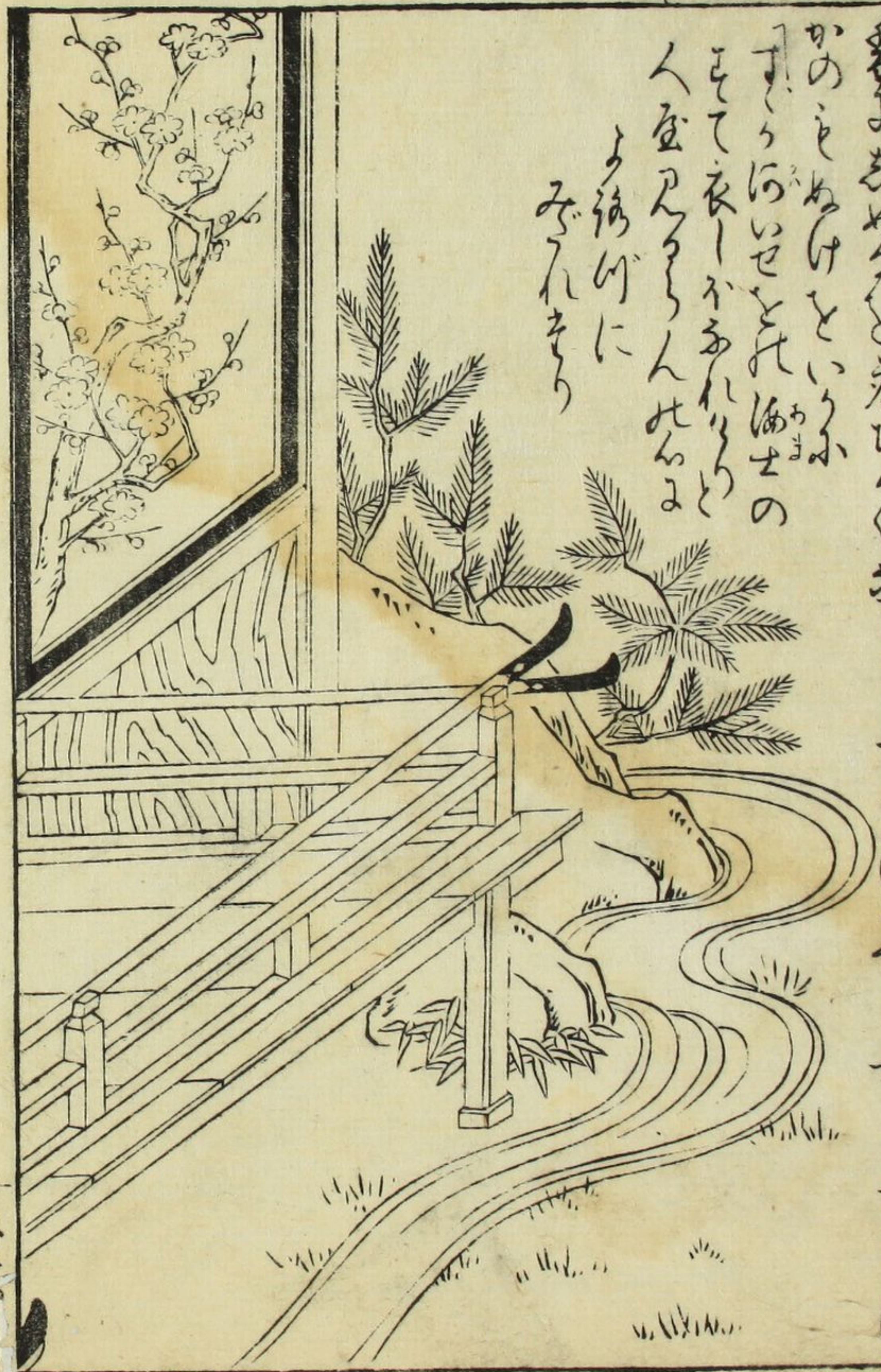


桐壺此又衣秋の落
とまかひて御門
法ありたうく執員れ
令女〜〜又衣の母夏
此衣あふ折〜秋の落
此西ああ声う〜れれ
ゆがいの令女 強御れ
これかさる〜とつ〜
ふ〜さ〜あ〜す〜あ〜
〜れ〜れ〜れ〜と〜



解 元

うめみれ君ハ眞女^{まんな}として光^{ひかり}をせり小^こま^まいひ^いめ^めと^とも^もあ^あら^らい
 を^をし^しず^ずせ^せあ^あて^てハ^ハり^りカ^カア^アリ^リア^アコ^コウ^ウラ^ラコ^コノ^ノイ^イト^トル^ルハ^ハリ^リト^ト人^人
 事^事よ^よ志^志め^めら^らと^と身^身ら^らく^くあ^あら^らし^して^て忍^にび^びい^いま^まり^り女^めう^うさ^さう^うに
 カ^カノ^ノミ^ミめ^めけ^けと^とい^いふ
 耳^{みみ}の^のい^いせ^せと^とれ^れ海^{うみ}士^しの
 正^{ただ}て^て衣^いし^し不^ふあ^あれ^れり^りと
 人^{ひと}を^を見^みん^んら^らん^んれ^れん^んよ
 よ^よ海^{うみ}の^のに
 み^みづ^づれ^れき^きり



夜上



ふ乃端れ
かちまうて
月は
うその
影さく
影をえ
なん

最上

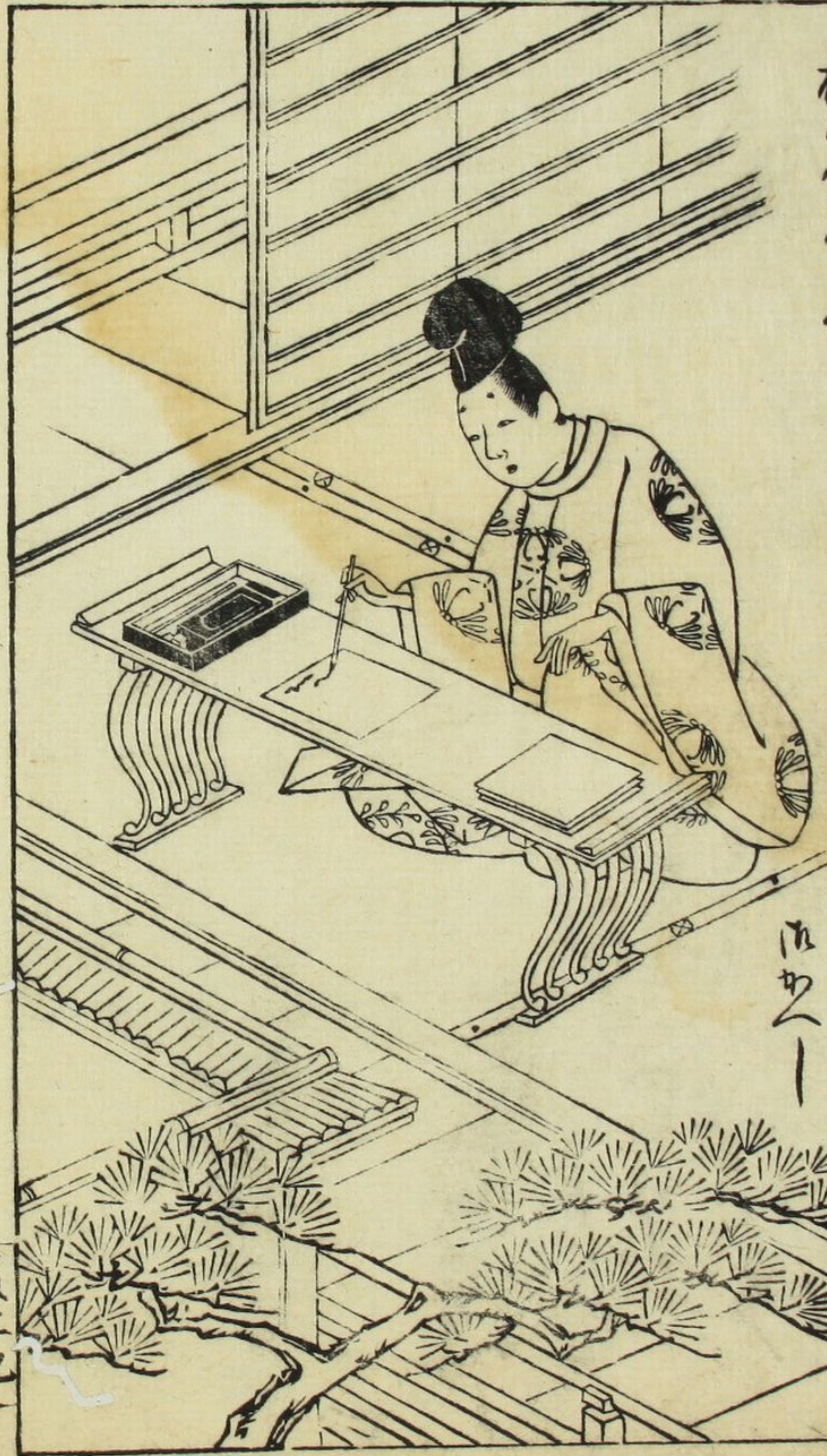


いろいろ文良とたつ
たつてみまうてり
小歌わらわらひつり
いとひなまのそあ
たつさあひこれお
楽してさあひあ
いふ（もや）や
人れまのいん
まのまのぬまのあ
るさあひいれ

きりし

清らなるたまのこころにわびさめふれり
 二条院乃あまふれはるるいとわづらへり
 かりとそとふれいとすむいかに
 神いぬれやとそとたまふは実のわづらひ

いかに



夜上九



いせまき
 わい
 せん
 す
 へ
 ぬれ
 ぬれ
 ぬれ

石明



光るまはまよりわしれ
 浦一を公に言えち
 わしれ入るる乃乃
 ちあけいとあま
 けううまめさり
 人く下れあはる
 きびのさうさめ
 らーさうぬかりま
 にくまなる旅れ
 けううさうさ
 きらわさ
 多ん
 腰衣
 多ん
 多ん
 多ん
 多ん

後上十一



中へれん
 ぬかーくせん
 わしれの
 日くす
 ぬさ
 ふうれ
 ころ
 ころ
 ころ
 ころ
 ころ

繪合



夏上



神門修と奥ありゆまとうせまひてそのこも
梅つわれこころさでんふと誇といませまよ
院の清のうりいりく奥あり誇とを梅はゆめをせまふり
かのたうでんのこころさでんふと誇といませまよ
才こそわが志ぬれうらハ
わそりいれぬむ秋のまはせりかるとなん

七

